

問題 17. 膠芽腫 (WHO GradeIV)

症例：62歳、女性。左側頭葉腫瘍。

検体 (採取法)：腫瘍 (圧挫)

染色：パパニコロウ染色

問題：正しいものに○、間違っているものに×を下さい。(VS：バーチャルスライド)

1. VSでは、核分裂像がみられる。○
2. VSでは、石灰化がみられる。×
3. シナプトフィジンが高率に陽性となる。×
4. 小脳虫部に好発する。×

解説

弱拡大でも核の大小不同が目立つ腫瘍組織である (図1)。背景に壊死は見られない。強拡大では腫瘍細胞の核は類円形、短紡錘形など多彩でありクロマチンの増加や、核小体のみられるものがあり、少数ながら多核細胞も認められる。核分裂像もみられる (図2 ←)。血管の増生や壊死は見られないが核分裂像があり退形成性星細胞腫か膠芽腫が考えられる。石灰化はみられない。シナプトフィジンは神経内分泌系腫瘍のマーカである。退形成性星細胞腫でも膠芽腫でも陽性になるのはGFAPである。両者とも大脳半球が好発部位である。

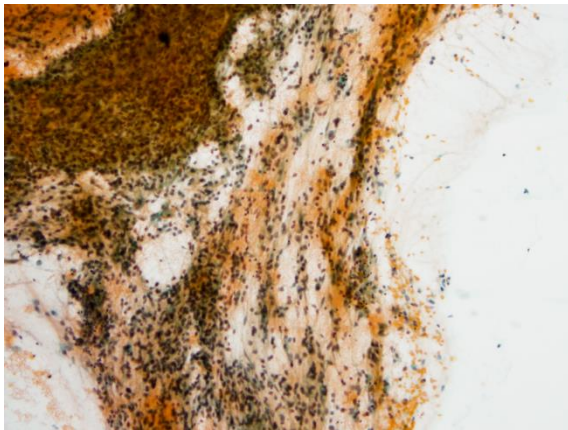


図1

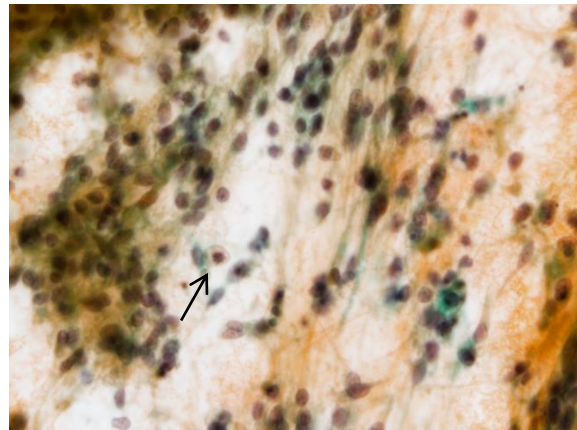


図2